

# 〇〇小学校 第6学年社会科 「縄文のむらから古墳のくにへ」

## シンキングツールを使って情報を整理、分析し、学習内容を深く理解する授業

### 【単元の目標】

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や地図、年表などの資料で調べ、世の中の変化の様子を考え、表現することを通して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### 【ICT活用のポイント】

ロイロノートを使うことで、学習の見通しをもち、考えの可視化、整理、共有、蓄積などができる。

#### 【つかむ】ICT活用

縄文や弥生のくらしの様子を想像図を見比べながら話し合い、単元の学習課題をつくる。

#### 【追究する】ICT活用

米づくりの広がりや古墳、国土の統一過程などについて調べ、整理し、気付いたことをまとめながら考えを深める。

#### 【まとめる】ICT活用

単元の学習課題について、時代の変化をくらしや政権統一の様子などと結び付けて考え理解を深める。

### 【事例の概要】 つかむ過程 1時間 追究する過程 1時間

- ◆ 個々の児童の考えを集約し、学級全体で考えの共有が容易に行えるため、ロイロノートのテキストに自分の考えを書かせ、提出させる。  
→【事例におけるICT活用の場面①②】
- ◆ 他の児童の考えをもとに多面的に考えたり、考えを再構築させたりするために、ロイロノートに提出されたテキストを回答共有して学級全体で閲覧できるようにする。  
→【事例におけるICT活用の場面①②】
- ◆ 町の歴史館の館長さんから石器や土器について直接指導していただくために、ロイロノートやZOOMを使用して学校と歴史館とを接続する。  
→【事例におけるICT活用の場面①】
- ◆ 既習事項を整理し、時代とくらしの様子の変化を分析するために、ロイロノートのシンキングツールを使う。  
→【事例におけるICT活用の場面②】

# 〇〇小学校 第6学年社会科 「縄文のむらから古墳のくにへ」

## シンキングツールを使って情報を整理、分析し、学習内容を深く理解する授業

### 【事例におけるICT活用の場面①】 ロイロノート ZOOM 電子黒板

これは何？（写真付で）  
  
調理する時の道具

どのような使い方か  
（絵でも字でも）  


根拠、理由  
（考えの元にした資料をつけて）  
実際に見て焼かれた後のようなものがあつたから。

縄文のくらしの様子（想像）  
土器に水をくんで火を起こしてその火の上に土器を乗せて水が沸騰したら貝を土器の中に入れて調理していたと思う



単元の「つかむ」過程では、学習への興味・関心を高めるために、町の歴史館から借用した石器や土器を観察し、ロイロノートのテキストに自分の考えとその根拠や理由、想像できる縄文のくらしの様子などを書かせた。また、ロイロノートのカメラ機能や手書き機能も使用し、文字だけでなく写真やイラストを駆使して自分の考えを書かせた。そのことで自分の考えをより視覚的で明確に表すことができた。

ロイロノートやZOOMを使って学校と歴史館を接続したことで、一人一人の児童が専門家のアドバイスや説明をその場でいただくことができ、さらに学習意欲を高めることに繋がった。

### 【事例におけるICT活用の場面②】 ロイロノート シンキングツール 電子黒板

縄文時代から古墳時代までの特徴を整理しよう！

<ul style="list-style-type: none"><li>胸部が膨らんでいる</li><li>腹部が膨らんでいる</li><li>足が特徴的</li><li>何も身につけていない</li><li>小さい</li><li>帽子みたいなものをつけている</li><li>手がないように見える</li></ul>	 見た目からわかること	<ul style="list-style-type: none"><li>刀を持っている</li><li>鎧を身につけている</li><li>足の下に台がついている</li><li>大きい</li><li>大きい</li><li>武人</li></ul>
--	---	--

時代、くらしの様子

争いはなく、平和  
食べ物が少ない

争いがあり、平和でない  
食べ物が安定して手に入る  
古墳で権力を示すようになる

まとめ  
縄文は食べ物がなかったけど協力して仲良くしていたが、米作りをきっかけに争いがおこるようになり古墳時代は小さなむらが大きくなっていった。

米作りをきっかけに世の中が変わった



単元の「まとめる」過程では、時代毎に既習内容を整理するために、ロイロノートのシンキングツールを使って、土偶と埴輪の特徴から当時のくらしの様子や時代背景を考えさせた。また、考えを共有し、新たな気付きをもとに自分の考えを再構築させるために、シンキングツールの画面を見せ合い自分の考えを説明させた。

シンキングツールの情報分析チャートは、情報（既習事項）の対比と整理が容易であるため、まとめに向かって自分の考えを視覚的に再構築させることに効果的であった。また、教師が意図的発問や指名を行ったことで、時代の変化と繋がりについてより深く理解させることができた。